



## 毎日新聞社 日野行介(平成11年卒業)

午後10時、仕事を終えて自宅でこの原稿を書くためパソコンに向い始めたところ、外から激しい消防車のサイレンの音が聞こえた。これまでに4ケタに上る回数は押したであろう電話番号に慌ててつなく。車両火災の1報だ。デジタルカメラを手に現場に出動する。

5年もいた大学を卒業し、新聞記者として滋賀県大津市で働き始めて今年が3年目。所属は「政治部」「社会部」でもない。大津支局という「地方支局」の駆け出し記者。しかし仕事は火事だけではない。バスジャック、「てるくはのる」、信楽高原鉄道事故判決——、社会的反響の大きい事件や裁判を取材する経験も得た。今は汚染脳硬膜を移植され、ヤコブ病という不治の病に感染し、死亡した遺族が国の薬害責任を問うため起こした裁判を取材している。

振り返ると5年も居たのに、自慢できるような大学時代ではなかった。取った資格は車の運転免許ぐらい。英語もできない。でも密度の薄い大学生活とは思っていない。数え切れないほど何度も夢中になって本を読み、そのまま朝を迎えた。けんかと和解を繰り返し、生活を共にするような恋愛もした。大学時代の厳しいアルバイトで覚えた技術が思わぬ形で今の仕事の役に立つことも間々ある。

我慢して他人と同じことをする必要はないと思う。地味ではあっても、流行に左右されずに自分と社会を見つめることを許す雰囲気がここにあった。そんな場所だった。



## イー・アンド・アイ システム株式会社 久芳太樹(平成10年卒業)

みなさん、今やりたいことはなんですか？もし、何かやりたいことがあるなら、それを思いっきりやってみて下さい。結果が出なくても必ず自分の身になります。私が大学に入学した時、特に何をするわけでもなく、漫然と毎日過ごしていました。そんな時、大好きなバンドの曲を聞いていると「今年は南へ旅行したい」という歌詞が耳に留まりました。この歌詞を聞いた瞬間「よし、俺も今年は南へ旅行するぞ」と熱い気持ちになり、だらだらとした日々を決別してバイクで南へ旅行することを決めました。しかし、福岡で生まれた私には広大な「南」は残されていません。そこで、カナダのバンクーバーからパナマ運河までの旅行を計画しました。結局旅行はメキシコシティで終わりましたが、準備から帰国までの過程で得た経験は一生の宝です。世界中から来た人たちと話すことで、広い価値観を身に付けることもできました。私が一番学んだことは、自分の一番確かな気持ちにしたがって行ったことは、必ず自分の人生のプラスになるということです。今、私は次のキャリアに向かって準備を進めています。皆さんも、志望校への合格を目指して努力されていることと思います。九州大学法学部には、やりたいことを一生懸命やれる場が用意されていますし、出会えてよかったと思える教授の方々もたくさんいらっしゃいます。健康に気を付けて、みなさんのやりたいことを実現できるようにがんばってください。



## 弁護士 吉田奈津子(平成5年卒業)

みなさんは、大学で何を得心したいと思っていच्छやいますか。私は、九州大学法学部において、会社法を通して、学ぶ楽しさを知り、師と仲間を得ました。怠け者の私が、自由な学生生活を謳歌しつつ、これらの宝物を得ることができたのは、2年間履修したゼミのおかげです。常識と言われる理論にも疑問を呈し、実社会にマッチした議論を要求される情熱的な教授の下、3年生も4年生も一緒に納得行くまで議論する、そんなエネルギーなゼミでした。ゼミ旅行や懇親会等の行事と同じくらい、徹夜で書き上げたゼミ論文や、班員で何度も集まって議論したプレゼミ(ゼミで報告を担当する班が行う報告のための事前準備)を思い出深く感じている元ゼミ生は私だけではないはずです。議論熱は他大学との合同ゼミという横の広がりやOB会という学年を越えた縦のつながりをももたらしました。あなたも、自由な発想とおおらかな環境に恵まれた九州大学法学部で、興味をひかれた法律について、仲間と議論する機会を持ってみられてはいかがでしょうか。得るものは決して少なくないと思います。



## 航空宇宙技術研究所 大山真未(昭和62年卒業)

就職を考えていた大学4年の頃を思い出すと、東京に行きたいというミーハーな希望が8割、残り2割は霞ヶ関の官庁街にいれば世の中が動く仕組みのようなものがわかるのだろうか、という漠然とした好奇心が原動力になっていたような気がします。

科学技術庁(現:文部科学省)に就職して14年経ちます(速かった! )。この間を振り返ると、科学技術を巡る行政的な仕事、例えば宇宙開発についての施策立案、原子力施設に関する訴訟担当、新素材開発を進めている研究所の監督等の他、クローン、ゲノムといった先端生命科学に関する倫理的問題の調査など、さまざまな仕事に関わり、いろいろな人に会うことができたように思います。また、2年間のイギリス(ケンブリッジ大学大学院)留学の機会にも恵まれ、勉強もさることながら、貴重な友人、ヨーロッパの風景など忘れがたい経験でした。

お役所の仕事は、夜中までの残業も多く、最近はや人への風当たりも強く、良いことばかりでもないですが、私としてはトータルで考えると面白い日々を過ごさせてもらっているのかなと感じています。



## 福岡市役所 城戸政史(平成元年卒業)

法律の条文を読んで、あれこれ解釈しているだけでは、法律が現実の社会の中でどのように存在し、活用されているのか、本当の姿はつかめないのではないかと。そんな感覚の私が選択したゼミは、「少年法」だったのですが、そのゼミで、少年刑務所に実際に出向き、収容されている少年の話を所長から聞くといった活動をするにつれ、「少年の将来を大切に考えるべき」という意見にも、「より厳しい対処がとられるべき」という意見にも、それを支持する人間の理想や情念が潜んでいて、どちらか一方に簡単に軍配を上げることはできない、実は「あれこれ解釈すること」とは、ひとすじなわけはいかない人間同士の感情の衝突を、理屈によって解決しようとする悩ましい作業であったのか、などと感じたものです。現在地方自治体で訴訟業務を担当しておりますが、法廷で相手方と顔を合わせると、さて自分はこの悩ましい作業とどうつきあっていったのか、と考える毎日です。